

舞鶴市保幼小中接続カリキュラム

まいつるカリキュラム 015

2019年2月

舞鶴市
舞鶴市教育委員会

はじめに

近年、子どもを取り巻く環境は、夫婦共働き世帯の増加や核家族化、また、地域等人間関係の希薄化等により大きく変容し、さらに少子化が進行する中で、本市においては、子どもの豊かな育ちのために、質の高い教育・保育を目指し、様々な取り組みを進めてきました。

そのような中で、「舞鶴市教育振興大綱」においては、ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子どもを育てるため、基本理念として“0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実”を掲げ、また、「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」においては、0歳から就学前の乳幼児期が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、基本理念として“主体性を育む乳幼児教育の推進・みんなでつながり育む舞鶴の子ども”を掲げております。その実現に向けて、保育の質向上研修や保幼小中連携研修などを実施し園種・校種の枠を越えて、共に学び合えるよう取り組んでいるところです。

今後、人工知能等の科学技術や情報化社会の進展など、予測困難な社会への移り変わりが想定される中で、将来を担う子ども達が直面する社会の変化や様々な課題に対応できるよう、乳幼児期に自己の決定力・表現力・調整力・コミュニケーション力等の基礎を育み、小学校期へとつなげ、生きる力を醸成していくことが重要となってきます。

本カリキュラムは、こうした考え方のもとで、0歳から15歳までを切れ目なくつなぎ、それぞれの成長段階での姿を「乳幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で一貫して捉え、年齢のつながりだけでなく遊びや体験から教科の学びにもつなげ、舞鶴の豊かな自然を活かした実践事例を多く盛り込むなど、舞鶴オリジナルのカリキュラムとして作成しており、保育者や教員の皆さんが使いやすいものになっています。子どもの豊かな育ちのため、本カリキュラムを有効活用していただくことにより、保幼小中連携をさらに強化し、0歳から15歳までの切れ目ない円滑な接続を目指していきたいと考えております。

本カリキュラムの作成に当たりましては、文部科学省のモデル事業「幼児教育の推進体制構築事業」の委託を受け策定したものであり、3ケ年をかけて、本市の保育所・幼稚園、小学校・中学校の代表者をはじめ、学識経験者の皆様にご参画いただき、ご尽力いただきましたほか、乳幼児教育に関わる多くの皆様方にご協力いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

2019年2月

舞鶴市長 多々見 良三



保育者・教員のみなさんへ

本カリキュラムは、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園・小学校・中学校がどのような保育・教育をしているかよく知るために役立てて下さい。

特に、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園と小学校との連携活動をされる際、また、年間計画を立てられる際にそれぞれの事例を見ていただき、参考にしてください。

舞鶴市 保幼小中接続カリキュラム

まいづるカリキュラム 015

1	保幼小中接続カリキュラム策定の趣旨・概要	1
	(1) 国の動向	
	(2) 舞鶴市教育振興大綱、舞鶴市乳幼児教育ビジョン及び舞鶴市小中一貫教育	
	(3) 保幼小中接続カリキュラム～まいづるカリキュラム015～	
2	全体像	7
3	0歳児から5歳児（乳幼児期）のカリキュラムと事例	9
	・人との関わり（0歳児から2歳児）	
	・ものとの関わり（0歳児から2歳児）	
	・生き物との関わり	
	・植物との関わり	
	・ものとの関わり	
	・人との関わり	
4	5歳児と1年生（接続期）のカリキュラムと事例	31
	・連携活動（育てる）	
	・連携活動（つくる）	
5	小学校のカリキュラムと事例	39
6	中学校のカリキュラムと事例	55
7	確かな連携のために	60
	(1) 保育所・幼稚園・認定こども園と小学校の連携活動の充実	
	(2) 子どもの育ちをつなぐ	
	(3) 支援の必要な子どもの育ちをつなぐ	
8	資料	68
9	各様式	72

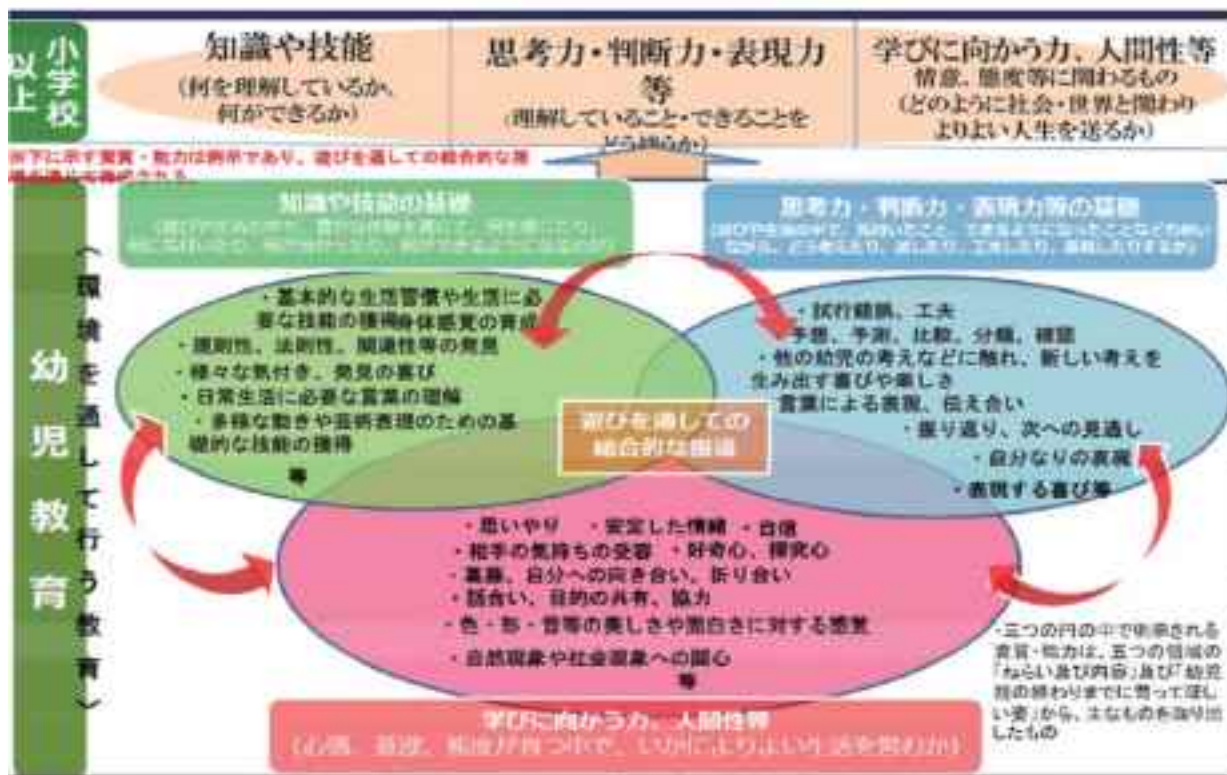
1 保幼小中接続カリキュラム策定の趣旨・概要

(1) 国の動向

国においては、保育所保育指針（以下 保育指針）、幼稚園教育要領（以下 教育要領）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下 教育・保育要領）が改定（訂）され、2018年（平成30年）4月1日より、適用、施行されています。改定（訂）にあたっては、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園（以下、認定こども園）を就学前の乳幼児教育施設（本市においては0歳～5歳までの保育、教育を担う施設として「乳幼児教育」としている）として捉え、その教育・保育の整合性の確保と小学校における教育との円滑な接続に配慮すること等が審議されました。

その結果、保育指針、教育要領、教育・保育要領の整合性が図られ、保育・教育において「育みたい資質・能力」や、5歳児終了時までに育ってほしい具体的な姿である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確にされました。

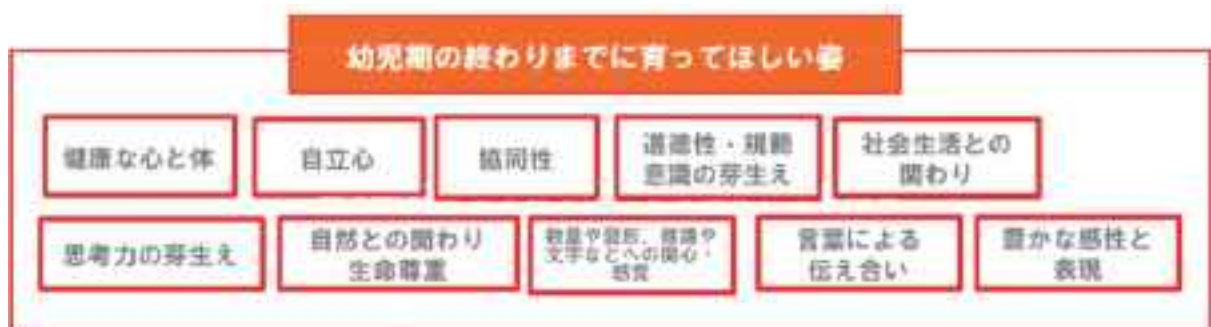
また、2017年（平成29年）3月に告示された小・中・高等学校学習指導要領（2020年4月施行）では、新しい時代に必要となる資質・能力として、すべての教科において①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つの柱が位置付けられました。そして、乳幼児期に育みたい資質・能力においても①知識・技能の基礎、②思考力・判断力・表現力等の基礎、③学びに向かう力・人間性等として示されたことにより、乳幼児期から小・中・高等学校まで3つの資質・能力が繋がったことになります。



平成29年度幼児教育指導者養成研修 資料より

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい力」（資料①参照）は、保育指針、教育要領、教育・保育要領に示されている「ねらい及び内容（保育の内容）」に基づいて、乳幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、保育・教育の中で育みたい資質・能力が育まれている乳幼児の具体的な姿であり、5歳児の終わり頃に見られる姿でもあります。いずれも、個別に取り出して指導するものではないこと、到達すべき目標ではないこと、すべての乳幼児に見られる姿ではないこと、5歳児になって突然見られるようになるものではないこと等を踏まえ、乳幼児一人一人の発達に配慮し、興味・関心に基づいた自発的な遊びの中で一体的に育まれるものと言えます。

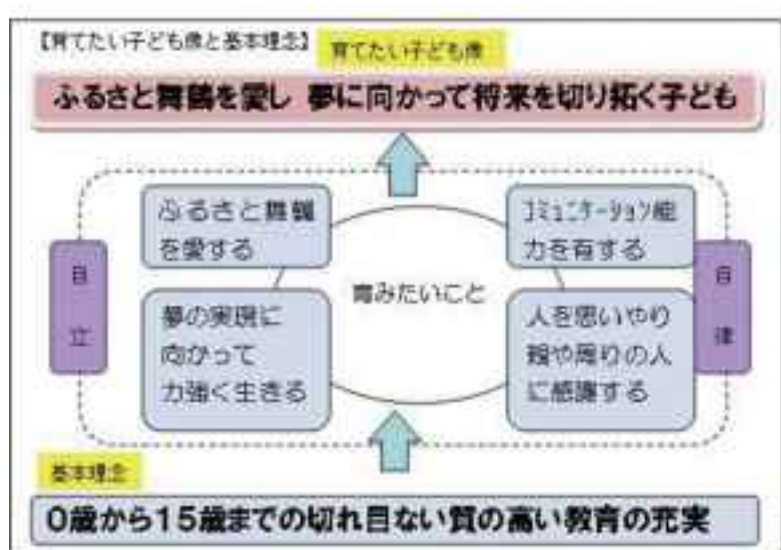
こうした乳幼児期に育まれた資質・能力を小学校以降の学びにつなげるためには、その具体の姿となる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小・中・高等学校と共有し、そのような姿がそれ以降の学びにどのようにつながっていくのか、互いに理解を深めていく必要があります。



小学校学習指導要領（２０２０年４月施行）においては、第１章総則 第２「教育課程の編成」の４「学校段階等間の接続」（資料②参照）には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫や乳幼児期の保育・教育を通して育まれた資質・能力を踏まえた活動等、児童が主体的に自己発揮しながら学びに向かえるようにすること、自発的な遊びを通して育まれてきたことが各教科に円滑に接続されるよう生活科を中心として合科的、関連的な指導や時間割の設定等の工夫することが明記されています。

（２）舞鶴市教育振興大綱、舞鶴市乳幼児教育ビジョン及び舞鶴市小中一貫教育

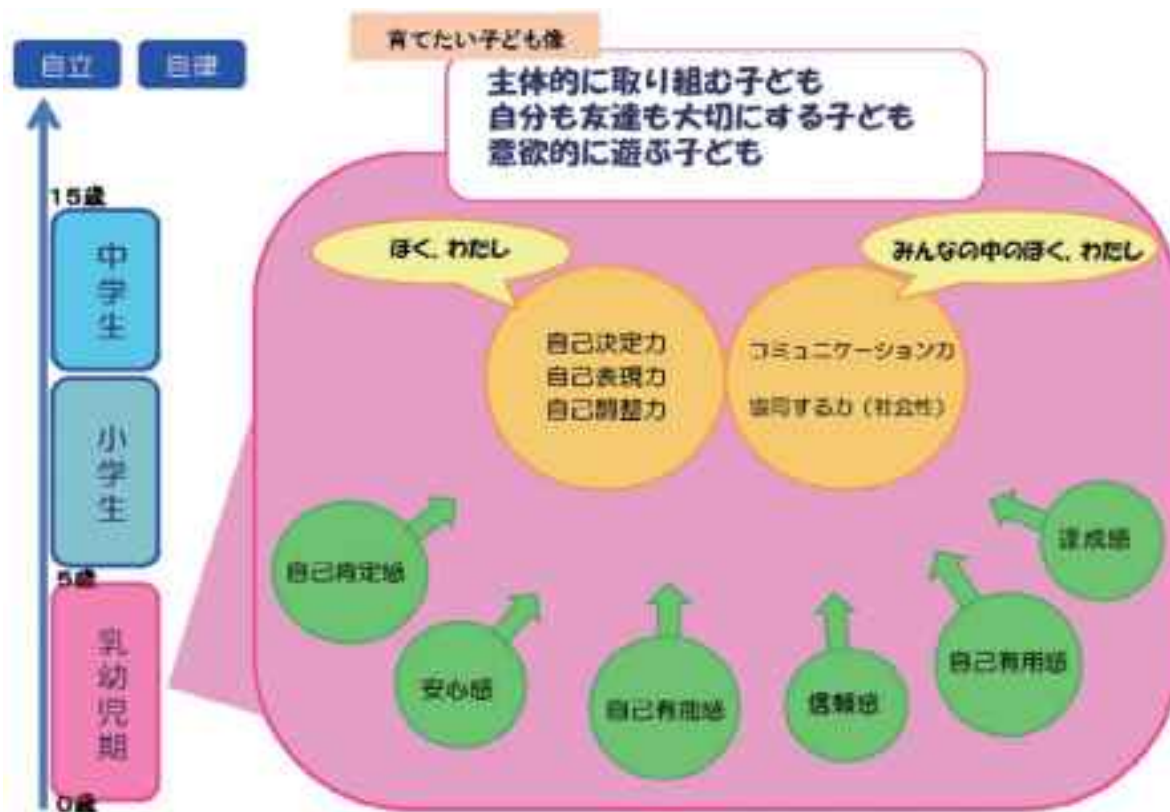
舞鶴市では、『舞鶴市教育振興大綱』において「ふるさと舞鶴を愛し 夢に向かって将来を切り拓く子ども」の育成を図るため、「０歳から１５歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を基本理念とし、その充実と推進に努めています。



『舞鶴市教育振興大綱』より

とりわけ０歳から就学前までの乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であることから、「主体性を育む乳幼児教育の推進～みんなでつながり育む舞鶴の子ども～」を基本理念とした『舞鶴市乳幼児教育ビジョン』（以下『乳幼児教育ビジョン』）を策定し、質の高い乳幼児教育の充実を目指し、家庭や地域等への情報発信や保育所・幼稚園・認定こども園、小・中学校への研修等を実施しています。

『乳幼児教育ビジョン』においては、「主体的に取り組む子ども」「自分も友達も大切にする子ども」「意欲的に遊ぶ子ども」の３つを育てたい子ども像として掲げ、自己決定力、自己調整力、コミュニケーション力等の育てたい力と安心感、信頼感、自己肯定感等の育てたいところを育み、将来、自分の力で生きていく「自立」と自分で考えて行動していく「自律」を備えた子どもを育成することを目指しています。



『舞鶴市乳幼児教育ビジョン』より

『小中一貫教育』においては、児童生徒の学力の充実、さらなる向上を図るため、義務教育9年間を前期4年（小1～小4）、中期3年（小5～中1）、後期2年（中2～中3）に区分し、児童生徒の発達段階を重視した上で、学習内容のつながりや系統性を明確に示しています。

また、そのような教科・領域の特性や系統性と共に、本市の育てたい子ども像である「ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子ども」を育むため、主体的に学び続ける「学び手」としての児童生徒を育成する視点でも前期、中期、後期の3区分に分けて9年間のつながりを大事にして授業改善に取り組み、複雑で変化の激しい社会の中で、自分の志を持ち、生涯にわたって学び続け自己実現できる「学び手」の育成を目指しています。

（３）『保幼小中接続カリキュラム～まいづるカリキュラム０１５～』

①策定の経過

前述のことを踏まえ、環境を通じた遊びや体験から学ぶ保育所・幼稚園・認定こども園での乳幼児教育と、教科等の学習を通して学ぶ小学校の学校教育、それぞれの違いを越え、子どもの育ちや発達に合わせ、滑らかに接続していくことが必要と言えます。また、本市では、小学校区ごとに保育所・幼稚園・認定こども園と小学校を連携協力園・校として指定し、子どもがどの園に通っていても連携活動が経験できるように取り組んでいます。保育者・教員には、連携活動の充実を図るため、互惠性のある連携活動について研修や公開授業・保育等において学び合い、互いの教育の方法を知る機会を持つように進めています。これら連携活動の充実が今後必要であることから、５歳児から１年生までの接続期カリキュラムを策定することとなりました。

本カリキュラムの策定にあたっては、学識経験者（１名）、私立保育所・幼稚園の園長、幼稚

園教諭・保育士の代表（各2名ずつ8名）、公立幼稚園長（1名）、公立保育所の所長（1名）、保育士代表（1名）、小学校校長（1名）、教員の代表（2名）で構成される「保幼小中接続カリキュラム策定会議」（以下、策定会議）を設置し、3年間をかけて検討することとなりました。

策定会議において議論を進めていく中で、本カリキュラムを『乳幼児教育ビジョン』と『小中一貫教育標準カリキュラム』を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」でつなぎ、舞鶴らしい、0歳から15歳までを切れ目なくつなぐためのカリキュラムにすることが必要ではないかと認識し、2年目以降は、中学校校長、教員代表（各1名ずつ2名）を加え、17名の構成メンバーで0歳から15歳までの切れ目ないカリキュラムの策定を目指してきました。

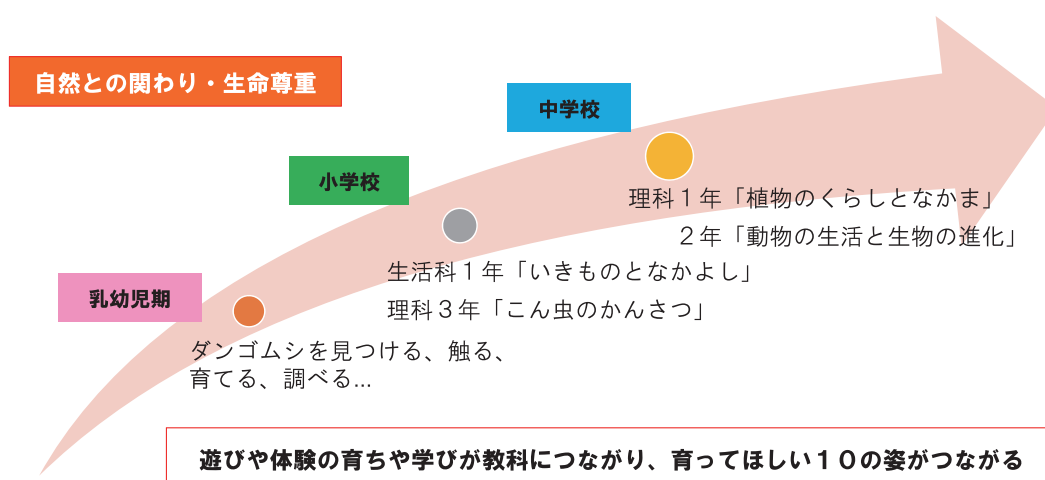
『乳幼児教育ビジョン』策定の際にも、保育所・幼稚園、小・中学校の0歳から15歳までの子どもに関わる保育者・教員が公私、園校種を越えて一堂に会し、議論を進めてきた経緯もあり、こうした機会を継続してほしいという声を実現することにつながりました。

②特徴

本カリキュラムでは、0歳から5歳の『乳幼児教育ビジョン』をスタートとして、6歳から15歳までの『小中一貫教育』へとつなぎ、0歳から15歳までを切れ目なくつなぐことを重視しています。0歳から5歳までに育まれた「主体性」は、主体的に学び続ける「学び手」を育むことにつながっています。そして、0歳から15歳までの姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で捉え、貫いていることも大きな特徴です。

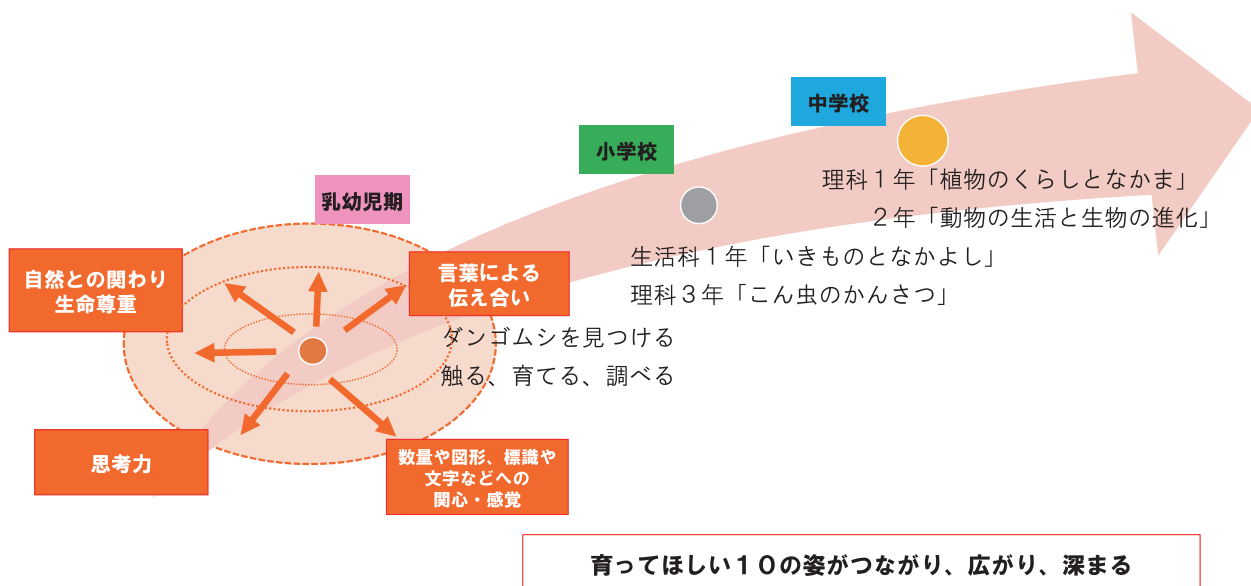
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5歳児の終わりに見られる姿とされていますが、内容的にはそれ以降にも必要な資質・能力であると考え、0歳から15歳の子どもの姿をこれらの視点で捉えてきました。

具体的には、“健康な心と体”“自立心”“協同性”“道徳性・規範意識”“社会生活との関わり”“思考力”“自然との関わり・生命尊重”“数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚”“言葉による伝え合い”“豊かな感性と表現”の10項目の視点で捉えています。本カリキュラムの中では、これらを「育ってほしい10の姿」として記述しています。また、「芽生え」という表記は、年齢を考慮し省いています。



本カリキュラムの中では、遊びや体験から教科の学びへとつながっていることが分かります。例えば、乳幼児期のダンゴムシと関わる体験は、小学校1年生の生活科「いきものとなかよし」、3年生の理科「こん虫の観察」や、中学校1年の理科「植物のくらしとなかま」、2年の

「動物の生活と生物の進化」につながっています。そして、「育ってほしい10の姿」の【自然との関わり・生命尊重】という学びは、どの年齢にも貫かれていることが分かります。

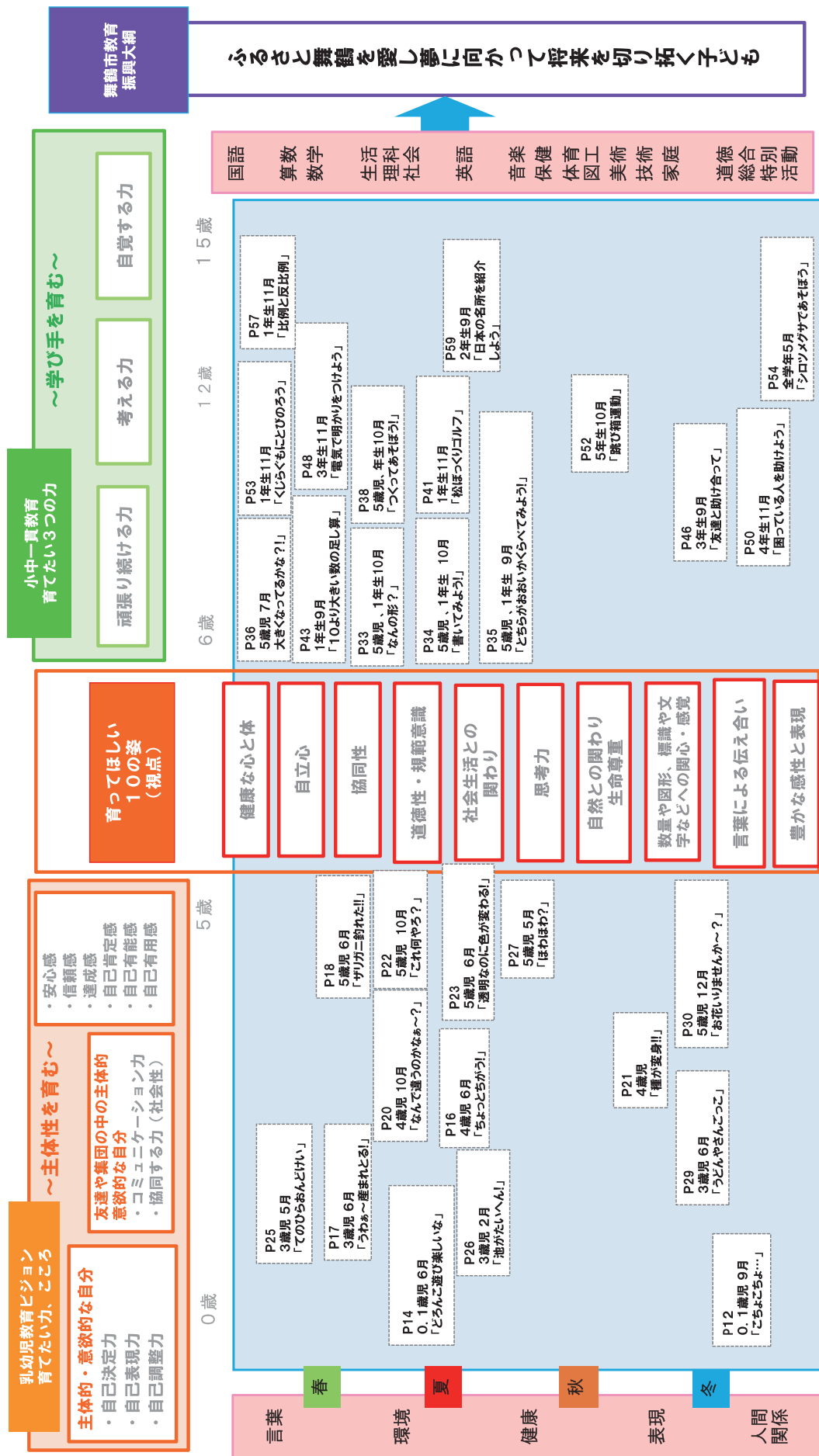


また、それぞれの年齢の遊びや体験、授業の中でも、育ちや学びは一つではなく、一方向でもなく、様々な学びや広がり、深まりが見られます。例えば、乳幼児期のダンゴムシを見つけ触ったり、観察したりすることは、形や大きさ、重さに興味を持つこと【数量や図形への関心・感覚】や、飼育するためには、図鑑で調べたり、周りの人に聞いたり、体験として生態や特徴を知ったりすること【思考力】や、知ったことや気付いたことを周りの友達に伝えること【言葉による伝え合い】にもつながっています。

また、本カリキュラムは、0歳から15歳までの各園・校の乳幼児教育・教育の実践事例を収集・検討し、検討した内容をもとに構成しています。事例には、舞鶴の豊かな自然を活かした遊びや体験、授業が多く取り上げられていることも大きな特徴です。まさに舞鶴らしいオリジナルのカリキュラムとなっています。

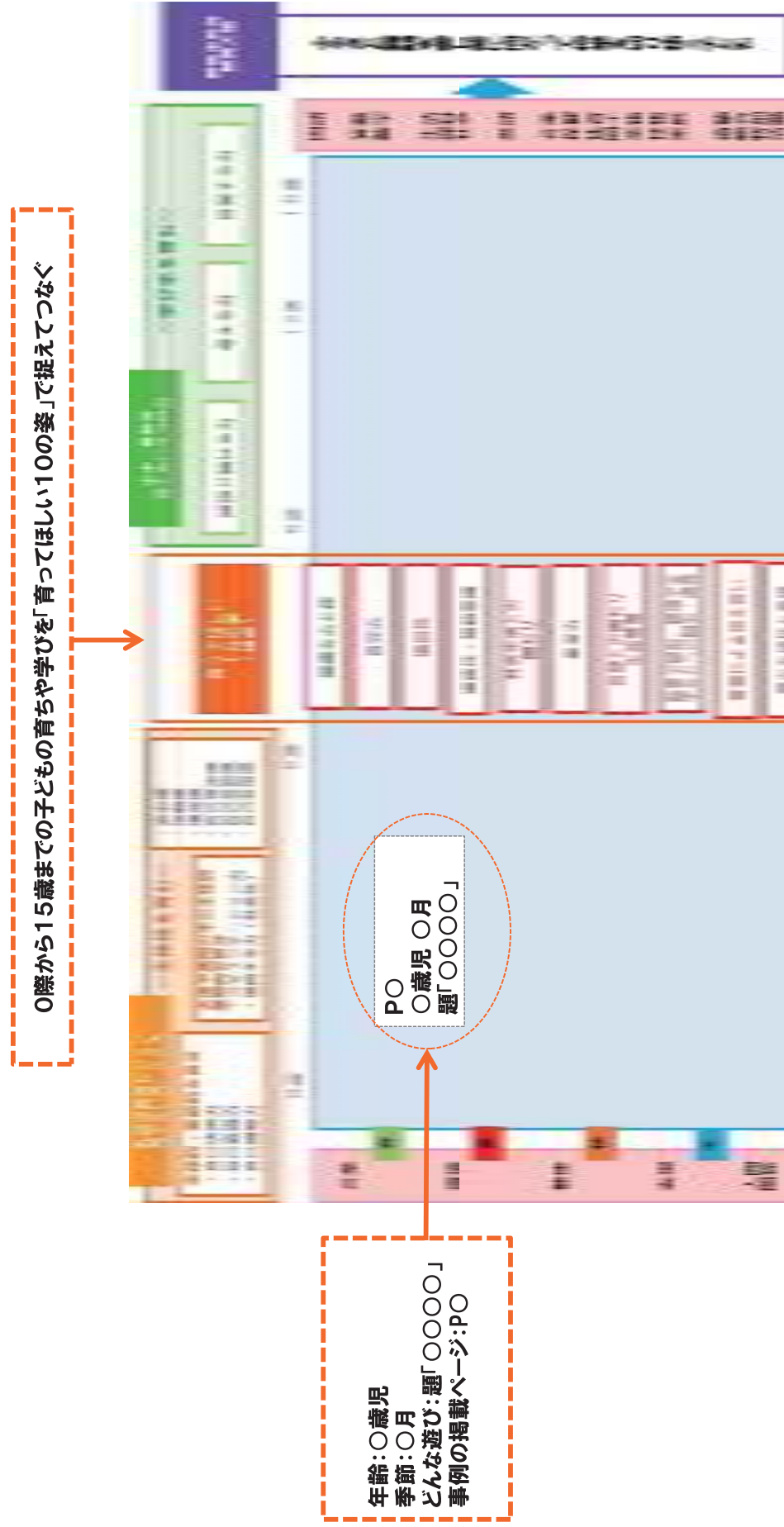
※本カリキュラムの活用方法については、事例等をそのまま活用するのではなく、各園・校の取り組みに合わせて参考にしたり、応用したりして活用していただくものです。

2 全体像



2 全体像

この図は、本カリキュラムの全体像を示しています。乳幼児期の主体的な遊びや生活の中で一体的に育まれた育ちや学びが、小・中学校での教科の学びへとつながっています。乳幼児期には、保育指針、教育要領、教育・保育要領に示されている「ねらい及び内容」を5つの領域で示し、小・中学校は各教科ごとに示しています。各事例は、5つの領域と教科につながる主な部分に置いていますが、学びはひとつではなく、つながり、広がり、深まっていきます。その学びを「育ってほしい10の姿」で捉えることにより、0歳から15歳を切れ目なくつなぐこととなります。



3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

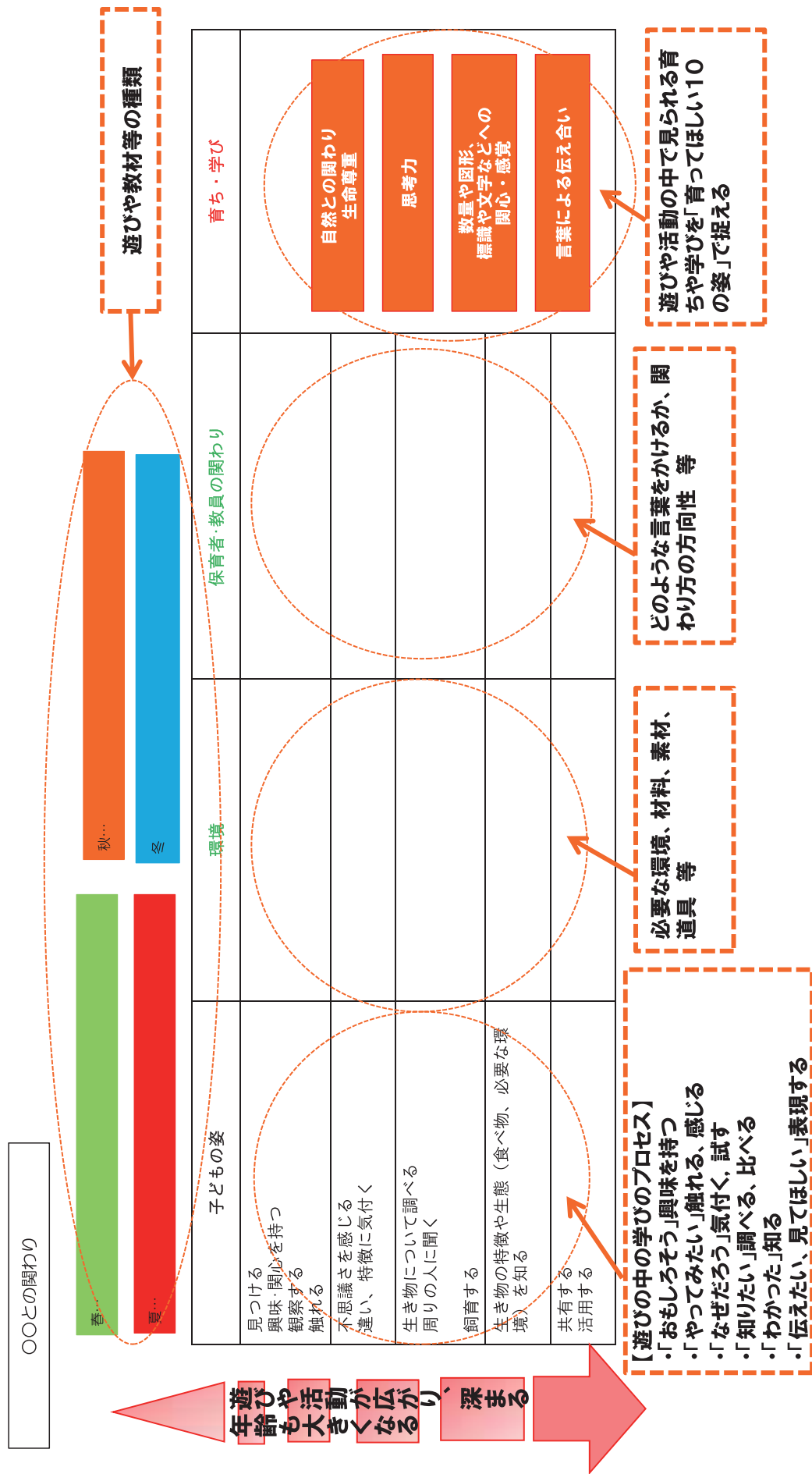
ここでは、0歳児から5歳児までのカリキュラムと事例を紹介します。

- 人との関わり（0歳児から2歳児）
- ものとの関わり（0歳児から2歳児）
- 生き物との関わり
- 植物との関わり
- ものとの関わり
- 人との関わり

□保育所・幼稚園・認定こども園の保育者の皆さんは、それぞれ実践される際に参考にしてください。

□小・中学校の教員の皆さんは、乳幼児教育を知っていただき、理解を深めるために活用し、小学校以降の教育にいかしてください。

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）



3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

人との関わり

0歳児

子どもの姿	環境	保育者の関わり	育ち・学び
泣いたり、笑ったりして気持ちを表す 声を出す、喃語を話す あやしてもらって喜ぶ	・心地よく、あたたかい雰囲気の中で、安心して過ごせる環境をつくる	・思いや欲求を受け止め、応答的に関わる ・喃語に語りかけたり、あやしたり、スキンシップを図ったりする ・1対1で関わる	自立心 豊かな感性と表現
特定の好きな大人ができる 後追いをする 人見知りをする		・愛着関係を築くために担当を決める等特定の大人が関わるようにする	
指さしをする 自分の思いを身振りや喃語で伝える		・喃語や指さし等を受け止め、視線を合わせ、共感し、思いを言葉にする	

1、2歳児

子どもの姿	環境	保育者の関わり	育ち・学び
周囲の子どもや身の回りの様々な人に 興味や関心を持つ	・心地よく、あたたかい雰囲気の中で、安心して過ごせる環境をつくる	・一人一人の思いを受け止め、応答的に関わる ・保護者や保育者以外の人と関われる機会を持つ	自立心 豊かな感性と表現
周囲の子どもにも興味や関心を持ち、自ら 関わろうとする 保育者とのやりとりを楽しむ		・他の子どもとの関わり方を知り、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように、仲立ちをしていく。 ・生活や遊びの中で、身振りや言葉でのやりとりをする ・絵本の読み聞かせを通じて、言葉のやりとりをする	

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

0・1歳児 9月 「こちよこちよ・・・」

遊び(活動)の展開

♪一本橋こちよこちよ♪の歌に合わせて、
てのひらや体をくすぐるふれあい遊びを楽しんでいた。
Aは保育者が♪一本橋こちよこちよ♪と
歌に合わせて、てのひらをくすぐっても
だまって見ていた。



Aちゃん

するとその様子を見ていたAも、
歌に合わせて保育者の
てのひらをくすぐり始めた。



保育者が「♪たいたいて～」
と歌うと、Aも「おーおー」とたくさん声を出し
保育者が「こちよばいこちよばい」と笑うと
手をたいて喜んでいました。



Bちゃん

保育者をしっかりと見つめ、反応を見ている。

繰り返し遊んでいると、側にいたBが
歌に合わせて、保育士のてのひらを
くすぐり始めた。



考察(育ち・学び)
・保育者との安心できる関係の中で、信頼感が芽生え、人への関心が育まれている。
・保育者の反応を見て一緒に楽しむなど、応答的な関わりの中で、模倣する力が育まれている。
・スキンシップの心地よさや、歌のリズムを感じ、身振りや声で楽しさを表現している。

人への安心感や信頼感を育むことが、【育ってほしい10の姿】の土台となる。

保育者・教員の関わり
(ねらい、意図、環境)

・スキンシップの心地よさや保育者との信頼関
係を深められるよう、ふれあい遊びを取り入れ
る。
・子どもの言葉や表現に応答的に関わる。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

ものとの関わり

0歳児

子どもの姿	環境	保育者の関わり	育ち・学び
見る 聞く 触る 握る 振る	・音を聞いて、色や形を見て、触って楽しむ玩具を準備する ・肌触り等の感触を楽しむ玩具を準備する ・なめても安全な木製の玩具を準備する モビール、ボール、おしゃぶり、ラップパ等	・見たり、聞いたり、触ったり、感覚を十分に働かせ遊ぶ姿に寄り添い、「きれいだね」「不思議だね」と子どもが感じていることを受け止め、言葉にする	思考力の芽生え
引っ張る 打ち付ける つまむ 出し入れする 繰り返す	・つまんだり、出したり、入れたりして楽しめる玩具を準備する ・空き容器等を利用して、音、形、色、手触りを楽しめる手作りの玩具を準備する ・一人一人が遊びに集中、満足できるように環境や玩具の内容、数量などを状況に応じて変えていく ・遊びを十分に楽しめる空間や時間をつくる		自然との関わり 生命尊重

1、2歳児

子どもの姿	環境	保育者の関わり	育ち・学び
興味・関心を持つ 触れる 繰り返す	・身近な自然のあるところ（田んぼ、畑、川、池、山など）に出かける 草花、木の枝、葉っぱ、木の実、虫や魚等の生き物等 ・感触遊びをいつでも楽しめるように環境を準備する 砂、土、水、泥等 ・絵本を準備する	・子どもが安心して遊び込めるように、一緒に遊んだり、見守ったりする ・子どもの気付きや発見を受け止め、言葉にする	思考力の芽生え
気付く 発見する			自然との関わり 生命尊重

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

0、1歳児 6月 「どろんこ遊び 楽しいな」

遊び（活動）の展開

初めは、泥水の入っているバケツの前にしゃがみ、親指と人差し指で泥水をちよつとずつ触っている。



スルスル
するね



バシャバシャ
楽しいね

そのうちに、泥水の中に足をつけて、バシャバシャと足の裏でも泥水の感触を感じ始めた。

最後には、水たまりの中に入って座り込み、じつじつと泥水の感触を味わう姿が見られた。



気持ちいいね

考察（育ち・学び）

・保育者に共感してもらい、安心して過ごす中で、自らの意思で水や泥への興味を広げていき、指先や足で感触を繰り返し確かめている姿やその体験は、【自然との関わり】【思考力】の芽生えにつながっていく。

今後の展開

・水の量を加減することで、泥の柔らかさの違いを感じたり、砂、真砂土、赤土など、種類の違う土を用意し、様々な感触の違いを味わえるようにする。

保育者・教員の関わり （ねらい、意図、環境）

- ・水、土などの素材の感触を感じられる機会を持つ。
- ・子どものペースで遊び出せるよう、子どもの姿を見守り、安心して遊びに入れるようにする。
- ・楽しさを感じられるよう、保育者も一緒に泥の中に入って遊ぶ。
- ・泥の感触、不思議さなど、子どもの気付きに共感し、「気持ちいいね」「楽しいね」など子どもが感じていることを、保育者が言葉で表現し、伝えていく。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

生き物との関わり

春…ダンゴムシ、カタツムリ、ミミズ、メダカ、アリ、オタマジャクシ（カエル）、カタツムリ、アオムシ（チョウ）

秋…ミノムシ、トンボ

夏…クワガタ、カブトムシ、セミ、ザリガニ

冬…冬眠している虫、テントウムシ

子どもの姿	環境	保育者の関わり	育ち・学び
見つける 興味・関心を持つ 観察する 触れる 捕まえる	・天候、季節に応じて、身近な自然のあるところ（田んぼ、畑、川、池、山など）に出かける ・園庭にピオトープを作る 虫取り網、虫かご等	・生き物は、時期、天候によって左右されることを知っておく ・地域の特徴や園内外の生き物の生息場所などを知っておく	
不思議さを感じる 違い、特徴に気付く	・調べるための道具や本等を準備する 虫眼鏡、簡易顕微鏡 図鑑、絵本、紙芝居、インターネット等	・正解は言わず「なぜ？どうしてそう思ったの？」と問いかける ・更に疑問を深める言葉や原因と結果がつながりやすい言葉をはける ・予測、考えたことをより確かなものにしようとする 質問を投げかける	思考力
生き物について調べる 周りの人に聞く		・振り返りや、話合いの場面を活用し、気付いたことを伝え合えるようにする（考える、聞く、伝え合う雰囲気作りを大切にすること） ・子どもの気付きを言葉や写真、絵、表にして見えるようにする ・植物に詳しい子どもに聞くなど学びを共有する ・クラスだよりやドキュメンテーションを活用して保護者に知らせ、関心を持ってもらえるようにする	自然との関わり 生命尊重 数量や図形、 標識や文字などへの 関心・感覚
飼育する 生き物の特徴や生態（食べ物、必要な環境）を知る 命について考える	飼育に必要なものを子どもと一緒に考える、準備する 水槽、飼育ケース等	・世話することと命の大切さについて考える機会を持つ	言葉による伝え合い
活用する ・生き物をテーマにした劇遊び、ダンス、歌や絵、製作などを楽しむ	・絵、製作に必要な素材、道具等を準備する 画用紙、絵具、ハサミ、ガムテープ、空き箱、牛乳パック等	・子どもたちと話し合って一緒に作りあげていく	

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

4歳児 6月 「ちょっとちがう！」

遊びの様子

畑にさつまいもの水やりに行った時の出来事。ダンゴムシだと思っていた虫が、実はワラジムシだった。ワラジムシだと知っていた子の言葉を保育者が伝えたことで、ダンゴムシとワラジムシとの違いに子ども達が気づき、考え、伝え合う姿が見られた。



**保育者の関わり
(ねらい、意図、環境)**

- ・子どもの気付きや発見を受け止め共感していき、さらに思考を深められるような言葉かけをしていく。

考察(育ち・学び)

・自然の中で、身近にいる虫に興味を持ち、触れたり比べたりする姿は【自然との関わり・生命尊重】につながる。「だんご虫つかまえた」「これワラジムシやで」などの子ども同士のやりとりは、まさに【言葉による伝え合い】である。「かたちちがう」「色いっしょやな」「さわってもまるくなくらん」という子どもの言葉から、比べたり、考えたり、気づいたりしている【思考力】の芽生えや【数量図形、文字等への関心・感覚】も育っている。

今後の展開

・ダンゴムシを見つけて、ワラジムシと動きや速さ等の比較や検証、探究すると新たな気付きが出てくるのではないか。また、1びきだと分からないが数匹集めることで、個体による違いも意識することができ。それぞれの生態についても知りたくなり、よく観察したり、図鑑で調べたりという活動にもつながる。「何が違う？」「何が違う？」「どんなふうに動いてる？」等の保育者の言葉かけや図鑑、飼育箱等の環境が必要である。

育ってほしい 10の姿	健康な 心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識	思考力	社会生活との 関わり	自然との関わり 生命尊重	数量や図形、構構や文字 などへの関心・感覚	言葉による 伝え合い	豊かな感性 と表現
----------------	------------	-----	-----	----------	-----	---------------	-----------------	--------------------------	---------------	--------------

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

3歳児 6月 「うわあ〜産まれとる！」

遊び（活動）の展開

園庭に出ると「ダンゴムシ探そー！」と、ダンゴムシに興味を持ち始めた。

段々と、ダンゴムシがどこにいるのかが分かって始め、石やプランターの下、ブロックやテラスの隅を探し、「こっちはいっぱいおるで」と友達同士で伝え合うようになってきた。

絵本や図鑑で、オスとメスの違いや脱皮、何を食べるのか等を知ると、ますます、ダンゴムシに興味を持ち、飼育ケースでダンゴムシの家を作り観察が始まった。

園庭でMがお腹に卵を持っているダンゴムシを発見したことで、一気に盛り上がり、育てることになった。次の朝、みんなで見ると、赤ちゃんが産まれており、大きな歓声が上がった。

このダンゴムシ赤ちゃんおる！

ダンゴムシのお家にいれたげよ

みんなもこんなに小っちゃかったのが、お母さんのお腹の中で大事に育って産まれてきたんやで

赤ちゃん小っちゃくて白い！

お母さんっすこいなー

赤ちゃん何食べるんやろ？

赤ちゃんはお母さんの脱いだ服食べておっきくなるんやで

ほくらーもお母さんから産まれてきたんやんな

おっきくなつて段々黒くなるんやんな！

ダンゴムシのお母さんや！

赤ちゃん産まれるんかなー？

わあ〜産めとる！

保育者・教員の関わり
(ねらい、意図、環境)

・ダンゴムシの絵本や図鑑などを子ども達が自由に見れる所に置き、興味・関心が持てるようにする。

・子どもの発見や言葉に共感し次への気付きにつなげるような言葉をかける。

・飼育することで“もっと知りたい”という探究心や、生き物に対する愛着が生まれ、大切にする気持ちを育てる。

考察(育ち・学び)

・飼育し興味を持って観察する中でダンゴムシのお腹に赤ちゃんが産まれたことから、自分もお母さんから産まれたこととなげ、命の不思議さを感じることから、【自然との関わり・生命尊重】につながっている。

・気付いたことや考えたこと、図鑑で調べた知識等を言葉にしている姿から【言葉による伝え合い】につながっている。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、組織や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

5歳児 6月 「ザリガニ釣れた！！」

遊び(活動)の展開

・「お家でザリガニ釣りにいったら友達と友達で持ってきたザリガニに興味を持って眺めているうちに
「僕らもザリガニ釣りたい」と気持ちが高まり、自分達でザリガニ用の釣り竿を作った。
エサは家庭から持ってきてもらい、公園へザリガニ釣りに出かけた。



し～静かにせんと、ザリガニ逃げで
釣れた
ちくわがめっちゃ釣れる
じゃこはすぐ離してしまふ

誰かちくわを持とらん？

公園に着くと、早速釣り竿にエサを付け、糸を垂らすとザリガニが寄ってきて、「釣れた」と言う声があちこちで聞かれた。

どうしたら釣れるかを真剣に考えながらザリガニを釣っている。
釣れたザリガニを数えてみると、50匹もいた。
そのザリガニをどうするか、池のまわりが集まって話し合いが始まった。

大きいのと小さいのと一緒にしたら食べてやな

だから小さいのだけ持って帰ろう

せっかく釣ったで、全部持って帰りたい



お世話が大変やで逃がしてあげよう

でも、こんなにつばいバケツには狭い

保育者・教員の関わり(ねらい、意図、環境)

- ・小動物への関心を高め、生き物を大切に思う気持ちを育む。
- ・互いの考えを認め合ったり、それぞれの考えを試すことができるように、子ども同士のやりとりを大事にする。
- ・ザリガニを身近に見る環境や、釣り竿を作る材料、ザリガニ釣りに出かけられる時間を設定する。
- ・家庭と連携を取り、えさを探したり、用意してもらう。
- ・数種類のえさをを用意することで、ザリガニがよく釣れるえさを考えたり、比べたりし、えさの特徴に気付けるようにする。
- ・50匹のザリガニをどうするか、持ち帰りたい子どもと、逃がそうと言う子ども、それぞれの理由を言葉で伝え合いながら、子ども達で話し合って決められるようにする。

考察(育ち・学び)

騒がしくしていると釣ることができないことや、エサの種類によって釣れ方が違うことに気付く、どうすればいいかを考えたり、工夫する力が育まれている。
・友達のことを聞こうしたり、友達と自分の考えを比べる等して、よりよい方法を探ろうとしている姿から、【思考力】の芽生えや【言葉による伝え合い】が育っている。
・「大きいのと小さいのを一緒にしたら食べてしまふ」等、育てるための適切な環境があることから【自然との関わり・生命尊重】が育ってきている。
・「バケツが狭いから4匹だけ持って帰ろう」という言葉から、入れ物の大きさを考慮しながら、数量を導き出そうとする感覚【数量・図形などへの関心・感覚】が芽生えている。

今後の展開

飼育を通して、単に世話をすることだけでなく、生命の尊さに気付く、いたわったり、命あるものを大切に思う気持ちを育んでいく。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、構構や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

植物（草花木実など）との関わり

春…サクラ、タンポポ、ヨモギ、レンゲ、ショウブ	秋…コスモス、木の実、イチゴ、キク、ススキ、ヒガンバナ、ドングリ
夏…アジサイ、ヒマワリ、アサガオ、ホウセンカ	冬…ツバキ、サザンカ

子どもの姿	環境	保育者の関わり	育ち・学び
見つける 興味・関心を持つ 観察する 触れる	・季節に応じて、身近な自然のあるところ（田んぼ、畑、川、池、山など）に出かける ・園庭の花壇、プランターで草花を育てる	・地域の特徴や園内外の植物の生息地などを知っておく ・大人は口出し、手出しをし過ぎないように見守る ・子どもと一緒に草花に触れる ・毒や虫などがいないか安全性を確認する	健康な心と体
不思議さを感じる 違い、特徴に気付く 変化に気付く	・調べるための道具や本等を準備する 虫眼鏡、顕微鏡、定規、メジャー、計り、容器等 図鑑、絵本、紙芝居、インターネット等	・正解は言わず「なぜ？どうしてそう思ったの？」と問いかける ・更に疑問を深める言葉や原因と結果がつながりやすい言葉をかける ・予測、考えたことをより確かなものにしようとする質問を投げかける	思考力
調べる 周りの人に聞く 試行錯誤する	・共有のスペース（玄関、廊下等）や見やすい場所に置く ・違いがわかるような置き方、比べたくなるような展示の仕方をする	・振り返りや、話合いの場面を活用し、気付いたことを伝え合えるようにする（考える、聞く、伝え合う雰囲気作りを大切にすること） ・子どもの気付きを言葉や写真、絵、表にして見えるようにする ・植物に詳しい子どもに聞くなど学びを共有する ・クラスだよりやドキュメンテーションを活用して保護者に知らせ、関心を持ってもらえるようにする	自然との関わり 生命尊重
活用する ・種を植え育てる ・花や葉っぱで色水を作って遊ぶ ・木の枝、葉っぱ、実を使って製作を楽しむ	・色水を作るための道具等を準備する すりこぎ、すりばち、計量カップ、透明な容器、ペットボトル、ボール、泡だて器等 ・製作用の本、素材、道具等を準備する ハサミ、ボンド、段ボール、画用紙等	・育ていく過程を子どもと一緒に観察する	数量や図形、 標識や文字などへの 関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

4歳児 10月 「なんで違うのかな〜？」

遊び(活動)の展開

ドングリを探しに散歩に出かけた。
たくさんさんのドングリが落ちている中、夢中になって
集めていた子ども達だったが、そのドングリに
色や形の違いがあることに気が付き始めた。



保育者・教員の関わり (ねらい、意図、環境)

- ・樹木には色々な種類がある事を知ることができよう、様々な種類の樹木がある場所を選び、散歩に出かける。
- ・ドングリの色や形、大きさの違いに気が付き、興味や関心を持つことで、集める楽しさや喜びを感じることができるよう、子どもの発見や喜びに共感する。
- ・「なんでこんな違うのかな？」と理由を問いかけることで、子どもがドングリの違いに気付いたら、理由を考えられるようにする。
- ・その場で『振り返り』をし、初めにドングリの違いに気付いた子どもの気付きを、他の子ども達にも広める。

考察(育ち・学び)

- ・自ら心と体を働かせて、あちこちでドングリを探すことは、【健康な心と体】につながっている。
- ・拾った場所により色が異なることに気付いたり、不思議に感じたり、木の実の色の違い、木の違いを予測したりする姿から【自然との関わり】や【思考力】の芽生えが育ってきている。
- ・自分の気付きや思いを友達と言葉で伝え合う姿から【言葉による伝え合い】が育っている。

今後の展開

- ・「何が違うのか」「どこが違うのか」などと意図的に問いかけ、子どもが言葉で表現できるようにする。
- ・ドングリの大きさや形、色の違いなどをよりわかりやすくするために、分けておく容器や、メジャーなどを用意する。
- ・一緒に数えてみることで、数量への興味や関心を育んでいく。
- ・『比べる』から『調べる』につながるよう図鑑、絵本などを置いておく。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

4歳児 「種が変身!!!」

遊び(活動)の展開

カボチャを収穫した際、その種を見た

Aが「これで絵が描けるんちゃう?」と言ったことから、種で絵を描いてみることにした。

Aはクレパスで魚の形を描き、クレパスにそってボンドをつけ、その上に種を並べている。それを見ていたB、Oも一緒に始める。

しばらくは、描いた線の上に種を置いていたBが、全体を種で敷き詰めて魚を描き始めた。



保育者・教員の関わり
(ねらい、意図、環境)

・種を使って作ったり遊んだりできるよう、子ども達に見えところにカボチャの種を置いておく。

・保育者が、種の活用方法を決めてしまうのではなく、子どもの発想を大切に、子どもが自分で考えたり、工夫することができるようにする。

・子どもの気付きや「やってみたい」という思いを受け止め、すぐに描いたり、作ったりできるように、子ども達がいつでも使える場所に、画用紙やクレパス、ボンド等を置いておく。

考察(育ち・学び)

・線の上に種を並べる、全体に敷き詰める、大小を分けて貼るなど、様々な並べ方やより自分のイメージする魚に近づけようと工夫する姿は、【思考力】の芽生えにつながっている。
・収穫した種を活かす工夫をし、並べたり重ねたりすることで絵や形にして表現していることから、【豊かな感性と表現】につながっている。

今後の展開

・カボチャ以外の種や画用紙以外の素材(布、木片等)でも試することができるよう、様々な素材や材料を子どもと相談しながら用意する。
・個々の遊びから、友達と一緒にイメージを共有して作ることができるような材料(段ボール、木材等)や用具(のこぎり、かなづち等)を用意する。
・様々な種類の種や木の実に触れられる環境を整え、違いに気付いたり、比べたりして探究することのできる時間や、それらを使って遊べるような空間を保障する。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

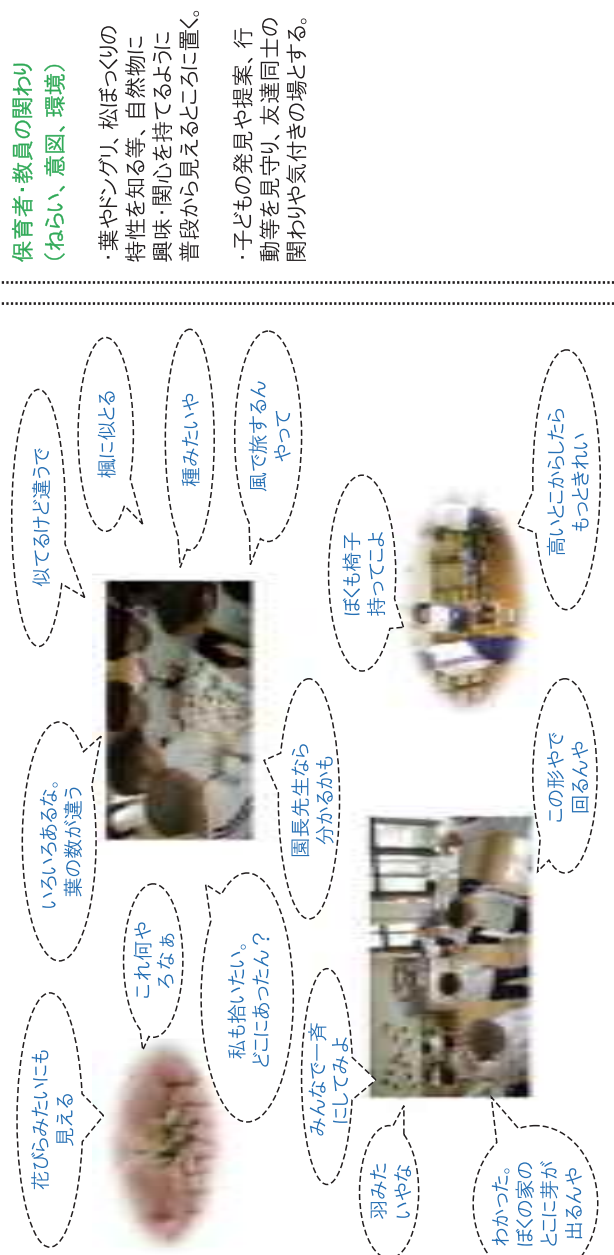
豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

5歳児 10月 「これ何やる？」

遊び(活動)の展開

登園時に、
「先生、秋見つけてきたで。でもこれ何か分らんのや」と一人の男の子が、手にたくさん小さな実のようなものを持ってきて見せてくれた。
「何だろね。どこで見つけたの？」
と保育者がたずねると、
「家のとこにいつはいい落ちとった。でもな、公園でもない幼稚園でもなさそうや。どうやら学校からきたみたいや」と言う。
「なんで分かったん？」
とさらに保育者がたずねると、
「見とったんやけどな、風で飛んできた。それが学校の方やったん。でも名前も何にも分からん。調べていい？」
と言うので、
「分かったら教えてね」と言葉を送った。
このやり取りの後、友達や保育者も一緒に名前の探しが始まった。
名前探しの最中、偶然落ちた実を見て、クルクルと回るとに気付いた子ども達は、その様子が楽しくて、遊び始めた。



保育者・教員の関わり（ねらい、意図、環境）

- ・葉やどんぐり、松ぼつくりの特性を知る等、自然物に興味・関心を持てるように普段から見えるところに置く。
- ・子どもの発見や提案、行動等を見守り、友達同士の関わりや気付きの場とする。

考察(育ち・学び)

・「葉の数が違う」「この形やから回るんや」という言葉から、数や形による違いや役割に気付いていると言える。【数量・図形などへの関心・感覚】が育っている。
・「楓に似とる」「似てるけど違うで」という言葉からは、物の性質や仕組み等に気付いたり、考えたりする【思考力】の芽生えが育っている。
・それぞれが経験したことや考えたことを言葉で伝え合ったり、相手の話を聞いたりしていることから【言葉による伝え合い】が育っている。

今後の展開

・なぜ回るのか、なぜこの形は回るのかという子どもの問いから子ども同士で話し合ってみたり、様々な形の物を落としてみたり、素材を工夫したり、試行錯誤する機会を持つ。

育ってほしい
10の姿

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形・構構や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

5歳児 6月 「透明なのに色が変わる！」

遊び(活動)の展開

以前園庭でのすり鉢とすり鉢に色水を作った、紫色のパンジーの花びらで色水を作っている子のそばに、シャボン玉の液を作るために石鹸を削っている子がいた。

偶然、石鹸の削り粉が、パンジーの花びらの色水に入った。
すると、紫色の色水があつという間に青色に変化した。

それ以来、色水に入れたら“色が変わるもの”を探し始めた。
スプイトで一滴ずつ落としながら色の変化をじっくりと観察している。

洗濯洗剤は、以前の石鹸の経験から青色に変化すると予測を立てて、試している。



これ(洗濯洗剤)は石鹸と似てるから、たぶん青ちゃう？

わあ〜！みて先生！青になつたで！！

わかつた！透明なモノ(液体)入れたらいろんな色に変わるんちゃう？

水道の水入れたら変わるかな？

水も透明やもんな。う〜ん先生も分からへんわー

じゃあ一回やってみよう

やっぱ(水道水だと)変わらんわ！

保育者・教員の関わり(ねらい、意図、環境)

・色の変化をじっくりと観察することができるよう、また繰り返し試せるよう、すり鉢やすりこぎ、試験管やスプイトを用意する。

・子どもの予測とは違った時には、子どもの新たな考えを受け止め、また試してみようと思えるように励ましたりする。

・煮出し用のコンロと鍋を用意し、より色の変化に興味を持ち、試せるようにする。

考察(育ち・学び)

- ・自分なりに予測を立てて試したり、物の性質に気付いたり、繰り返したりしていることから、【思考力】の芽生えが育っている。
- ・これらの気付きや発見を子ども同士で共有し、伝え合っていることから【言葉による伝え合い】が育っている。

今後の展開

- ・探ってきた花等をすぐに調べたり、周りの子も気付いて興味を持てるように、実験道具を園庭に置いておく。
- ・様々な花の色水でも試すことで、花の種類や色による違いを探究していく。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数値や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

もの（砂・水など）との関わり

春

夏

秋

冬

- ・種類の違う石・砂・土（真砂土、赤土など）
- ・天気、日向、日陰、光、虹、雨、水たまり、風
- ・水、氷、お湯
- ・音

子どもの姿	環境	保育者の関わり	育ち・学び
見つける 興味・関心を持つ 観察する 触れる	・夢中になるための十分な時間 ・様々な道具や素材を置き、選べるようにする ・スコップ、じょうご、型抜き、シャベル、タライ、各種ペットボトル、ホース、とゆ、じょうろ、計量カップ、透明な容器等 ・石けん、絵具、紙テープ、風船、風車、セロファン等 ・保管しておく棚、場所を準備する ・調べるために必要な本等を準備する 図鑑、絵本、紙芝居、インターネット等	・保育者がモデルになり、一緒に遊ぶ ・子どもの発見や気付きを伝えたい、見せたい気持ちにに応じ、不思議さや気付きに共感する ・同じようなことをしている子どもの存在を知らせる ・子どもにも問いかけて、子どもの思いや考えを引き出す ・クラスだよりやドキュメンテーションを活用して保護者に知らせ、関心を持ってもらえるようにする	思考力 自然との関わり 生命尊重 数量や図形、 標識や文字などへの 関心・感覚 豊かな感性と表現
不思議さを感じる 色、形、濃さ、感触などの違いや特徴、変化に気付く			
調べる 周りの人に聞く 試行錯誤（混ぜる、量を調整するなど）する			
特徴や特性などを知る			
活用する 言葉で伝える		・子どもの気付きを言葉や写真、絵、表に見えようにする ・振り返りや、話合いの場面を活用し、気付いたことを伝え合えるようにする（考える、聞く、伝え合う雰囲気作りを大切にする）	

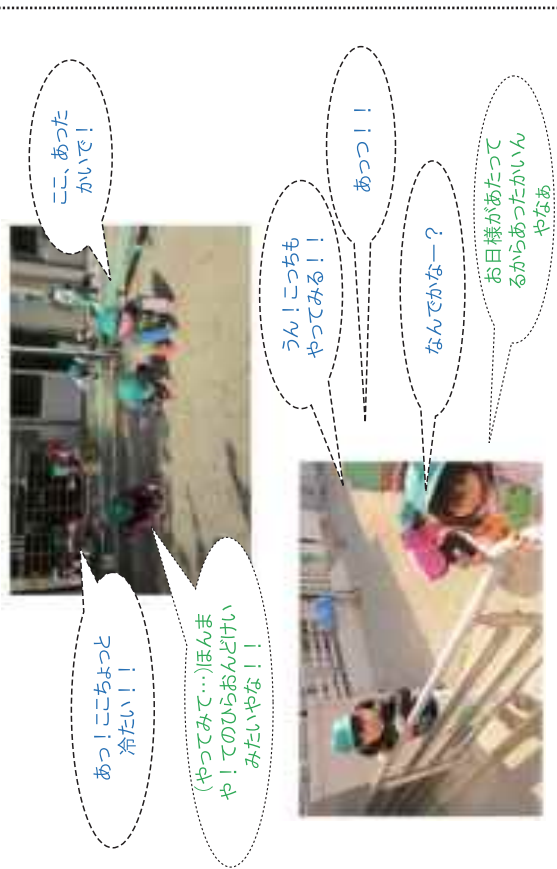
3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

3歳児 5月 「てのひらおんどけい」

遊び(活動)の展開

大好きな“てのひらおんどけい”の絵本を読んだあと、中庭に出た。すると、RちゃんとMちゃんが地面を触り、絵本の世界を楽しみながら何度も何度も繰り返し遊んでいた。

保育者の「てのひらおんどけいみたいだね」という言葉から、真似をし始めた。友達の話も聞いて、自分でも確かめてみようとする姿もあり、保育室のそばで遊んでいた遊びが、園庭中に広がる。その中で、冷たいところと、温かいところ、熱いところがあることに気付いた。



保育者・教員の関わり
(ねらい、意図、環境)

- ・てのひらおんどけいの絵本に興味を持っていた子ども達の姿を受け、実際に試せれるように、中庭に遊びに行く前に絵本を読んだ。
- ・他児にも気付いてもらえように、「てのひらおんどけいみたいだね」という言葉をかける。
- ・冷たいところと暖かいところがあることに気付いていたので、理由や原因へと興味に向かうように、言葉をかける。

考察(育ち・学び)

- ・「あっ！ここよつと冷たい！！」「ここ、あったかいで！」と、自分の思いを言葉にしていることから【言葉による伝え合い】につながっている。
- ・てのひらを使って温度を感じられることがわかり、何度も試して確かめている姿は、身近な事象に積極的に関わる中で気付いたり考えたりしていることから【思考力の芽生え】につながっている。
- ・『ひなた・日陰』などの小学校での理科につながっていく。

今後の展開

- ・様々な場所ですてのひらおんどけい”を試していくことで、経験を重ねていく。
- ・4、5歳になった時に、温度計を置くなどして、経験したことをつなげていく。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、構構や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

3歳児 2月 「池がたいへん！」

遊び(活動)の展開

気温が低く、毎日のように池の水面が凍っていた。
日々様子が異なることに興味を持ち、登園すると必ず、
池の様子を見に来ていた。

この日は、いつもより氷が分厚いことを
「いつもより大きい」「スコップが入らない」「ゴンゴンって音がする」
等と表現していた。



今日も
『ツルツル』とる。

昨日より、氷が大きいな。

中に入らんで。

『ゴンゴン』って音がする。



昨日より氷が
が厚いね。

どんだけ、
かたいのかな？

ほんまや。硬そうやな。
どんな音がする？

保育者・教員の関わり (ねらい、意図、環境)

・日によって違う氷の変化への気付きに共感し、厚さや硬さに興味を持てるように言葉をかける。

・氷の違いを見たり、触ったり、じっくりと関わられる機会を持つ。

考察(育ち・学び)

・水の厚さ、硬さ、昨日と今日の違いを比較する姿は、【思考力】の芽生えにつながっている。
・水が凍るといふ自然現象に興味を持ち、自然の変化を感じていることから、【自然との関わり】につながっている。

今後の展開

・水によって違い(音、割れにくさなど)があることを発見したり、比較したり、溶けたりするの、考えたり、試したりできるよう、絵本や道具等を準備する。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

5歳児 5月 「ほわほわ？」

遊び(活動)の展開

4歳児の時から夢中になっていただんご作り。

冬は地面も濡れて遊びが低迷していたが、春になり地面が乾燥してくると、再びブームが訪れてきた。

だんごを磨くためのさら砂作りを、いろいろな場所を試している。

その中で、日陰になったテントと日向の境目でAとBがさら砂を作っていた。

そこで、日陰と日向の砂の違いを発見した。

影の所より太陽が当たつとる所の方が、さら砂作りやすいんやで

そうなん？Kくんも触ってみたら？

ほんまや！
このさら砂
あつたかいわ

あつたかい所のは、
ほわほわした砂
なんやで

そうか、ほわほわして乾いとるから、陰より太陽の所は、さら砂作りやすいんやな

保育者・教員の関わり
(ねらい、意図、環境)

・子どもが自分で気付いたり、発見したり、考えたり出来るように、様々な種類の土や砂を園庭に置いておく。

・子どもの発見や気付きをより明確にするために、わかりやすい言葉にして伝える。また、他の子ども達にも共有するためにもう一度伝える。

考察(育ち・学び)

・繰り返しだんご作りを楽しむ中で、日陰と日向の砂の違い（温度、湿度、砂の質感）に気付き、自然の変化や身近な事象に関心を深めていることから【自然との関わり】【思考力】の芽生えが育っている。

今後の展開

・小学校の理科「ひなたとかげ」の学習につながる。

育ってほしい
10の姿

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、継続や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

人（ごっこ遊びなど）との関わり



家族ごっこ、ままごと、ヒーローごっこ、お医者さんごっこ、お店屋さんごっこ、忍者ごっこ、幼稚園・保育所ごっこ、アィドルごっこ、乗り物ごっこ（バス、電車）等

子どもの姿		環境	保育者の関わり	育ち・学び
興味・関心を持つ 模倣する 見立てる		・見立てるためにイメージのしやすいものや、具体物を準備する ぬいぐるみ、人形、風呂敷、ハンカチ、かばん、おんぶ紐、エプロン、布団等 ・ごっこ遊びの空間、コーナーを準備する キッチンコーナー、机、椅子等 ・本物に近い道具を準備する 鍋、皿、コップ、お玉、スプーン等	・一緒に遊びながら、やりとりの言葉やしぐさをモデルとなって示す	社会生活との関わり 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
	なりきる 友達や保育者とやりとりする			
友達とイメージを共有する 自分のイメージを言葉で伝える 相手の話を聞く		・イメージを表現するための道具や素材などを準備し、子どもと一緒に環境を作る ハサミ、マジック、絵具、カラーポリ袋、不織布、毛糸、スズランテープ、画用紙、お花紙等	・子どもが自分なりのイメージを持って表現できるように、一人一人の発想に共感する ・子どものイメージしたことを共有するため、言語化する	
	友達と共通の目的に向かって協力する 話し合う中で、相手の考えや思いに気付き、取り入れたり、折り合いをつけたりする		・子ども同士で話し合う機会を持つ ・見守る	
表現する ごっこ遊びに必要なものを作る 伝えたい、見せたい気持ちが生える			・より本物に近いものにするため、本物を見たり、触れたりする機会を持つ	

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

3歳児 6月 「うどんやさんごっこ」

遊び(活動)の展開

晴れた日は、園庭に出てままごと遊びを楽しんでいる。

Aに何を作っているか尋ねたところ「うどん」の答えが返ってきた。

Aの姿を見て、同じように道具を移動させて遊び始めたB、C、D。Bは、うどん作りに参加して、だし入れの役を担当し、CとDはお客さん役になって、遊んでいる。

何作ってるの？



A:うどん！



なんだか
いい匂いがするね。

B:おだしをいれるので待ってください。

あったかくて、
おいしいね。ありがとう



C:僕もたべたい
D:うどんください

保育者・教員の関わり (ねらい、意図、環境)

・「何作っているの？」など質問かけすることで、子ども達の中に「うどん」の共通のメッセージが持てるようにする。

・「なんだかいっぱいにおいがするね」「あったかくておいしいね」と言葉をかけることで、遊びがなががり、広がっていくよう働きかける。

考察(育ち・学び)

・家庭やお店で経験したことを再現したり、遊びの中に取り入れられたりしていることから、【社会生活との関わり】につながっている。

今後の展開

・ごっこ遊びが発展していくよう、子どもの様子を見ながら、鍋、お箸などの身近な道具や、草花など遊びに必要な素材を整えとともに、保育者は必要に応じて仲立ちとなり、子ども同士をつなげ、遊びを深めていく。発達に応じた環境や保育者の配慮が必要であり、4～5歳になれば、役割分担をしたり遊びに必要なものを自分達で考えて作ったり、準備したりする力が育つことから、保育者が準備し過ぎないことも考慮していく。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

3 0歳児から5歳児（乳幼児期）

5歳児 12月 「お花いりませんか〜？」

遊び(活動)の展開

小学校との連携活動を通じて、的入れ屋さんやけん玉ショー等を経験してきたことをきっかけにお花屋さんやアイスクリーム屋さん等、自分たちで考えたお店屋さんが始まった。

この日はB園の5歳児のお子ども達がお客さんとなり、A園のお店にやって来た。

花屋のお子ども達は、初めてお店に来るB園の友達に、どんな花があるのか、値段はいくらか、おすすめはどれか等を花屋の店員になりきり丁寧に説明していた。

お金に見立てたダングリは、1個が100円とのことで、お客さんの持っているダングリの数を確認しながら買えるお花を伝えたり、どんなお花がよいかをお客さんに尋ねたりする姿が見られた。

A園：青色
B園：桃色

机の上のお花はお金がいりませんか？ 下のお花は無料です

無料のお花があるとお金が少ししかなくても買いにこれるね

2個はここから選んで無料のもあるで

ドングリ12個しかない

ドングリ何個持つてる？

6個はどれでも買えます 4個はこれになります どれにする？

お花ください！！

これ買える？ 6個

いらっしやいませー お花ありますよー

値段が書いてあって分かりやすいね

400円のがおすすめですよー

保育者・教員の関わり(ねらい、意図、環境)

- ・イメージがふくらむよう様々な素材や道具を準備し、いつでも使ったり作ったりできるように環境を整えておく。
- ・保育者が指示したり決めてしまうのではなく、子どもの思いや発想を受け止め、考えたり工夫する姿を認めていく。
- ・子ども同士がやりとりしたり、自ら関わって遊ぶ姿を見守る。
- ・相手(お客さん)の立場に立って声をかけたり、わかりやすい表示を作る工夫をする等の視点に気付くような言葉かけをする。

考察(育ち・学び)

- ・お客さんにアピールすることで言葉のやりとりを楽しんだり、丁寧に接客をすることでコミュニケーション力や相手の立場に立って考える力【言葉による伝え合い】が育っている。
- ・お金のやりとりやお店の看板を文字や数で表すことで相手に伝わりやすくしていることから、【数量や図形、標識や文字等への関心・感覚】が育っている。
- ・自分の経験をもとにしてイメージしたことを表現したり、物を作り、遊びの中で再現していることから【社会生活との関わり】につながっている。
- ・身の回りの様々な素材を使って、魅力ある商品になるように工夫して表現していることから【豊かな感性と表現】が育っている。

育ってほしい
10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識

思考力

社会生活との
関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現